

知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【開催日時】平成24年7月20日（金）

13時00分～15時00分

【会 場】菊川市中央公民館

1 出席者

- ・ 発言者 掛川市・菊川市において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 154名

2 発言意見

| | 項 目 | 頁 |
|-------|---|----|
| 発言者 1 | 自主防災に関する提案 | 3 |
| 2 | 医療に関心を持ち、医療を支える市民意識の醸成 | 5 |
| 3 | 地域製造業の情報発信 | 9 |
| | 全日本学生フォーミュラー大会の支援 | 25 |
| 4 | 母親クラブによる子育て活動 | 11 |
| 5 | 東山地区の環境保全型農業の取組 | 15 |
| 6 | 農産物の流通の取組 | 17 |
| | 食材のPRの推進 | 23 |
| 傍聴者 1 | 「近助」による防災の取組の推進 県産材の活用 | 27 |
| 2 | 原子力発電所の安全対策 茶の研究推進 新東名高速道路付近の排気ガス調査要望 交差点の歩道改良 自転車の傘差し運転規制の緩和 | 29 |
| 3 | 富士山静岡空港周辺でのウォーキング大会の提案 | 30 |
| 4 | 事業仕分けの成果 | 30 |

<知事挨拶>

今日はこの菊川市の太田市長さん、またお隣の掛川市の松井市長さん、そして県議会の代表の宮城先生、増田先生、さらに今日は少し梅雨模様のようになっておりますが、足元の悪い中、菊川また掛川から来ていただきました地域の皆様、ようこそお越しくださいました。平太と語る広聴会でございます。

今日は、これはもう18回か19回目になると存じます。静岡県下35の市町がありますけれども、今まで大体24ほどの市町の方にお邪魔いたしまして、そして今回25、26番目ということで、菊川市のところで菊川、掛川の市民の代表の方々からじっくりお話を承ると。そしてもし時間が許せばフローアの方々からも御意見を賜りまして、それを県政に生かしていくというそういうプログラムでございます。

菊川のこの公民館のすばらしさに実はびっくりしました。今、移動知事室というのをしております、移動知事室というのは、知事室は中心が今は静岡市の県庁の中にございますけれども、扱っているのは静岡県全体でございますので、何もそこにいる必要はないということで、私はドアを開けっ放しにいたしまして、それまでは開かずの扉だったんですけども、観音開きに開きまして、その最初の抵抗勢力は開いたところの前にある知事公室というところがございます、そこに20人ぐらい働いているんです。そこが開いていると落ち着かないと言うんですね。それがまずは片っ方だけ開けて6カ月、両方開けるのに1年かかりました。

しかし、来る者は拒まない、助力を惜しまない、見返りを求めないということで、ひっきりなしに人はいらっしゃるのですけれども、しかしやっぱり間接的に聞くのと、現場で見て、そこで直接に聞くのと大分違いまして、私が出かけるための扉にもなりまして、過去3年余り、公務出張で1,000回を超えました。そのうち県下の数は870ということで、大体1年間に300回ぐらい出かけているわけですが、静岡県もここらあたりはそんなに遠くありませんけれども、湖西、あるいは水窪、あるいは井川とか、あるいは石廊崎等、大変遠うございまして、そういうところに行くだけでも時間がかかり、そして夜遅くならないうちに帰らなくちゃいけませんので、どうしてもじっくりと聞けません。それで今度は中心を多中心にしようということで、知事室それ自体を移すということにいたしまして、実質これで3回目です。1回目はウォーミングアップで富士でやりまして、そして今回公式で始まって2回目で、こちらで今日は3日目でございます。

この3日目、朝一番で掛川の「ふくしあ」、フクシアというきれいなお花がございますね、

イヤリングみたいなきれいな、そのフクシアというお花にかけながら、幸福の「福」と幸せの「幸」、そういう施設を見学に行きまして、行政と介護と福祉協議会と総括支援センターが皆一つのところに入って、地域の人々のために働いている、これ本当に感心しました。厚生労働省も感心して、雑誌で特集を組んだりしているところでございます。非常に先進的な試みであると。さすが掛川だと思った次第でございます。

そしてその後菊川に入りまして、菊川の家庭医療センター、すぐ近くでございます。そこに行きまして、また感心いたしました。もうほとんどお医者様が不足で困っている中で、専門の病院と開業医のちょうど真ん中であって、10名強の先生方がすべての家庭のおじいちゃんの年いっての病気、あるいは働き盛りのお父さん、お母さんのいろんな治療が必要なこと、あるいは子供たちのけがから何から、もうお産から最後の看取りに至るまで、全部ができるシステムが菊川でできているということで、しかもこれは外国の最良の成果を取り入れたものとして研修医も、研修医というのは実力を上げていく若い先生方ですが、その方たちも大変に注目されて、その人たちからもお話を聞きましたところ、もう本当に実力が上がっていきますということで、ここにも感心いたしました。

そしてこちらに来たのですが、もうその図書館の立派なのにびっくりしまして、また児童館が木の香りがして、子供たちが遊べるように、また勉強できるようになっておりまして、そして今日はここで食事をいただいた、それがうまくて、また深蒸し茶がうまい、掛川の深蒸し茶か菊川の深蒸し茶かというような感じでそのお茶もいただきまして、そして今日は優れた方々のお話を承るということでございます。

2時間、長丁場でございますけれども、きっと私たちも学ぶことが多いと存じますし、今日ここにいられている方々もこの会が実りあるものになりますようにと確信し、祈念をいたしまして冒頭における御挨拶といたします。本日はどうもありがとうございます。

< 発言者 1 >

私は昨年3月11日、静岡市で東日本大震災に遭い、家に帰ることができない帰宅困難者の経験をいたしました。テレビで流れる映像を見て、地震の恐ろしさと、改めて巨大地震が発生したとき、十分な準備がなければ甚大な被害は避けられないことを再認識いたしました。このような大規模な被害を受けた場合、そのすべてに公的機関が救助に来るということは、事実上不可能です。そのようなとき、自分たちの地域は自分たちで守るという「共

助」の取り組みが大変重要です。

災害による被害を最小限に抑えるため、自主防災会の力は不可欠だと思います。もちろん自分の身は自分で守る「自助」は言うまでもありません。地震の発生を防ぐことはできませんが、地震強化地域として長年培ってきた対策を確実に実施することで減災することができると思います。自然は過去の習慣に忠実であると歴史は教えてくれています。それゆえ、災害は必ずやってきます。そのために準備は万全にしておく必要があります。

私が地区自治会長として体験した駿河湾地震から、自主防災組織の課題と活性化について報告させていただきます。この地震で加茂地区はけが人12人、屋根瓦落下222棟、屋内の家具類の転倒や落下物を初め、屋内でも多くの被害がありました。この被害状況の把握収集が難しく、非常に時間がかかりました。

幸い、この地震では建物の倒壊やインフラ設備に問題がなく、市役所職員2名と地区会長を中心とした体制で何とかできましたが、次のような問題点がわかりました。一つ、大規模地震では現在の情報伝達を主とした体制では対応できない。一つ、地区本部と自主防災組織との通信手段が考慮されていない。一つ、6自治会で自治会長が防災会長を兼務しているということです。しかし、東海地震では今回の地震とは比べようもない被害が想定されています。

この教訓をむだにはしないと、加茂地区は三つの改善策を決定いたしました。一つ、安否確認方法の改善、今後震度5以上の場合は、被害がなくても安否確認と避難訓練を実施する。一つ、全自治会は自治会長の自主防災会長の兼務をやめるということを基本的に決めました。地区の体制改善は行政側と調整の上、改善することとしました。私の所属自治会では災害時要援護者1人に対して近所で2名の人を選任してつけるように改善いたしました。この改善は大変よかったと今でも思っています。

しかし、災害は地震だけではありません。台風、集中豪雨等の対策を考慮しておく必要があります。昨年、台風12号の大雨による菊川氾濫の避難勧告では、避難場所が自治会と行政とで一部考えが違い、住民も戸惑いを感じました。大きな問題点として、避難所運営委員会が機能しなかったのです。アパート入居者で避難場所がわからない人がいた。災害施設、地震、台風、土砂崩れによる避難場所の再検討の必要があるのではないかと、このような問題点がありました。しかし幸い、避難勧告発出後、雨も小降りになり、問題になりませんでした。数多くの課題を残した台風でした。

以上の地震、台風の事例を見ると、いずれも防災組織ができていても、防災訓練のよう

には機能しないことです。防災組織を活性化するための対策の一つとして、行政が一定の条件をつくり、被害状況報告を義務化すれば、必然的に自主防災組織が動くと思います。現在市役所と調整中です。早く被害状況を把握することは対策上、非常に大切なことと思います。

対策2として、防災訓練では自分たちのつくった自主防災組織のすべての班が活動するようなストーリーをつくって実施すれば、防災力アップと活性化につながると思います。現在、加茂地区防災指導員は3名で活動しています。活動は7地区をキャラバンとして回り、勉強会の実施ということで、その中で「自助」の必要性、「共助」の必要性等について、皆さんと議論をしていきます。

今年については災害事例の問題点改善と防災力アップを目的に、加茂地区と行政に対し改善要望を提案しています。時間の関係で一例を紹介します。まず地区自治会に対しましては、各自治会は危険箇所の調査をして、対応できないものを付加する。それを持ち寄って加茂地区の防災マップをつくるということです。また自主防災会の連絡用の無線機の購入ということで、これは行政のことかもしれませんが、自治会でできるならばということで検討委員会にかけてあります。

関係者による構成会議の実施、アパート対策、災害時要援護者対策等について、まだいろいろあるわけですが、そういうことを地区自治会にお願いしてあります。行政に対しては、各地区にかかわる事項ということで、マンネリ化した情報伝達訓練の改善と、市主導の各地区持ち回りの代表訓練の実施をしたらどうかということです。

2点目が、各地区の防災対策本部、単位自治会の防災組織の地区ですね、ここがやっぱり弱点ということで、一応私の方で体制図の漫画を書きまして、地区の検討委員会にかけて、それを直していただいて、よければ各地区へ落としてもらおう。市民を啓蒙するため、毎月11日を防災の日としたらどうか。現在の避難場所が本当にいいのだろうかということなど、提案事項について自治会、行政と連携しながら、目的達成に努力したいと思います。

このように改善し、防災組織が機能しても、市民一人一人の防災対策がなされていなければ、自分の命や家族を守ることができません。すなわち自助を目標としていることを市民一人一人が認識する必要があります。災害時、地震先進県として「自助」「公助」で減災し、「さすが静岡県」「さすが菊川市、掛川市」と言われたいものです。

また大切なことは、普段からの関わりがいざというときの助け合いにつながる。つまりコミュニティ、地域づくりが最も必要だと思います。いつも市長が言います、こういうよう

なことが安全安心なまちづくりにつながると思います。今後も皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

<発言者2>

私たちの会は平成21年10月から、日本全国そうなのですけれども、特にこの中東遠地域の医療が大変厳しい状況にありまして、利用者側や行政の努力だけでは、維持して今後につなげていくことが困難であることを強く感じました。それで今、市民である私たちに何かできることはないかということをもみんなで真剣に考えるようになりました。

今までは、多分ここにいらっしゃる皆様方も大半の方がそうではないかなと思いますけれども、病院について病気で診てもらうために行くとか、お見舞いに行くとかという程度で、医療者の方がどんな状況で私たちの安心安全のために日々努力をされているかなど、考える必要はなかったし、考えることもなかったと思います。

しかし、皆で地域医療の現状を学習していく中で、医療現場の厳しい日常を知ることができました。医療現場では私たちのために自分自身の生活を顧みることができず、地域医療の医療と一生懸命頑張っている疲労困憊した医療者の姿がそこにはありました。医療者も同じ人です。体を休めることができなければよい医療、適切な診断、治療などができません。どんなにすばらしい立派なお医者さんがいらっしゃっても限界があります。

それでは、市民としてどのように考え行動していくことが必要なのでしょうか。それはやはり今までの私たちの意識感覚を見直し、これからは市民も健康なときでも医療に関心を持ち、医療を支えるという意識を持つことだと思います。また自分自身の体への責任として、予防、健診、早期治療が重要であることを認識して行動することだと思います。

そのようなことから、会では活動を行っていく上での基本理念として、「市民が安心して生活していく上で欠かすことのできない地域医療体制を考え、市民みずからの健康の維持増進のための努力を行い、医療等に関する理解を深め、医療者にも市民にとっても魅力ある地域、及び選ばれる地域となるように努力をする」としております。

私たちの地域には、道徳の考えや報徳の考えや生涯学習の理念が根付いております。どんなときにもお互い様の関係づくり、思いやりの心を忘れず、医療者も地域住民も同じ市民として限りある資源をうまく使い、次世代につなげ、また誇れる環境となることを目指し、私たちは活動を進めております。

具体的には三つの活動を行っております。一つ目として、市民の健康や医療への関心を

高めるための事業です。医療や健康に少しでも関心を持っていただけるように、情報誌を発行したり、あと各会場にチラシをお配りしながら、皆様方に関心を持っていただくような活動、それから自分たちが動き出すこと、みんなで考えることの大切さを伝えるために講演会を開催したり、また、私たちの会のシンボルマークのバッチであるとか、あとマスコットキャラクターがあるのですけれども、あとのぼり旗に、私たちは5つの活動宣言をしております。それを作りまして、出かけましたところで皆様方に見ていただくことで、私たちの活動を知っていただき、みんなで一歩ずつ進めるように行っております。

二つ目が適切な治療行動がとれるための情報発信や啓発活動です。『子供の救急のかかり方』のパンフレットを昨年作りました。安心した生活ができるよう、また苛酷な労働環境にあります病院医師の負担軽減のためにも、利用者のためになるものということで、『子供の急病のかかり方』のパンフレットを作成いたしました。

また、もっと多くの方に情報を届けるために、出前講座の開催もしております。特にことしはもう7、8カ所の幼稚園に伺いまして、特にこの『子供の急病のかかり方』の中には、かかりつけ医を持ちましょうとか、上手な病院の受診の仕方であるとか、いろんなことを昨年お母様方からいただきました御意見をもとに作りまして、これを持ちまして啓発活動を行っております。

また三つ目が、医療者がやりがい感を持ち、その力を十分に発揮できるための環境づくりへの支援です。これはなかなか病院に行っても、皆様方そうだと思うのですが、お医者様にいろいろしていただいて、よくなっても、お礼を言おうと思っても言う機会がなかったりとか、そういう場面がきっとあると思うんですが、静岡県のお医者様方に、医療者の方々にアンケートをとりましたら、やはり感謝の言葉をいただいたときが一番にやりがい感を感じるんだそうです。

そういうことで私たちは掛川市総合病院の地域連携室の前に、「ありがとうメッセージボード」というのを設置しまして、皆様方のありがとうの言葉をまとめて、そして病院の医局であるとか、看護師であるとか、いろいろな項目がある中に少しデコレーションをしてお話をして、皆さんがこんなに感謝をしているんだということもお伝えするようなこともしております。

また、懇談会の開催ということで、たくさんの皆様方の声を聞くために、いろいろなところに出かけていって意見を聞いたりというようなことをしておりますし、今私たちは掛川での活動を主にしておりますが、島田とか袋井とか森の方々と同じような活動をしてい

る方々ともネットワークをつくり、自分たちの地域だけがよければいいということではなく、やはり同じようないろいろな問題をみんなで考えて解決をしていけられるようなそういう取組もさせていただいております。

とにかく私たちは掛川では、先ほど知事さんがおっしゃっていただいたように、とても先進的な「ふくしあ」とか、いろんな構想で行政の方はやってくださっていますが、そのシステムをうまく活用するには、私たち市民が理解をして、それを上手に使っていくことが大事ではないかなというふうに思っております。そういう意味でも病院であるとか行政と市民との橋渡しの役割が担えていけたらいいのかなということで、私たちは一人が百歩ではなくて、百人が一步ずつということで、地道にこつこつ、大した活動はできませんけれども、少しでも自分たちの生活がよりよくなるようにということで活動をさせていただいております。

<発言者1、発言者2に対する知事のコメント>

いやもう感心して聞いておりました。菊川の発言者1さん、それから掛川の発言者2さん、さすがだなと思いました。それぞれ発言者1さんの場合には有事、危機に際して備えをどうするかという、そして発言者2さんの場合には平時、すなわちこのようなときに健康のために自分たち市民に何ができるかという、それぞれ有事と平時における市民のあり方、心のモデルみたいなことを言われたんじゃないかと思います。

特に発言者1さんは菊川の防災指導員だけでなく、本県の地域防災活動推進委員会の委員もお務めいただいております、確かに静岡県は防災の先進県なのではございますけれども、防災の先進県の中で、例えば総合防災訓練というのは年に1回ですけれども、これだけでは不十分だと。だからもっと危機感を持って、例えば11日、毎月やったらどうかというふうなこと。それからさらに避難場所というのも、本当にみんなが知っているのかとか、さらにまた要援護者といいますか、社会的弱者の方々を有事のときにどうするか。

そして何よりも、いったん大きな惨事に見舞われますと、情報が手に入らない。一番惨事に襲われたところの情報が入らないというのが現実になります。すなわち一番必要な情報が入らない。そのときのことを考えて、無線機などを前もって持っているというふうにしてはどうかと。

実に具体的で、これまで指導者として自主防災に関わってこられた方としての有益な御提言があったということでございます。私どもも危機管理というものをすべてに優先して

おりますけれども、このような自主防災組織に関わっておられる発言者1さんのような方々が増えるということを通して、防災力を高めるということが大切だということを痛感した次第でございます。

それからまた発言者2さんは、お医者さんに頼るというんじゃなくて、お医者さんを励ますという、あるいはお医者さんに感謝をするという、そういう市民としての姿勢というものを立ち上げられまして、そしてお医者様までに調査をなさって、お医者様が最も喜ばれるのは「ありがとう」感謝の気持ちを出していただいたときだということで、今度は掛川の総合病院に「ありがとうメッセージボード」をつくられたということで、いかにお医者様は掛川で医療に当たっていることを幸せかというふうに思った次第でございます。

そしてその中でちらっと言われましたけれども、掛川には報徳の思想が生きていると興味われたのにも感心をいたしました。こうしたことは掛川というところだとすつと言えるんですね。恐らく東京だとか、ほかの地域で報徳とか、あるいは「おかげさまで」というふうなことを言っても、ちょっとぴんとこないようなところがあるかと存じますけれども、ここはそういう思想が生きていると。だから感謝をして、感謝をするべき相手、そして自分たちの健康を支えてくださっているお医者様が健康を害さないように、お医者様を我々で支えましょうというその思想はまことに立派だというふうに思います。通常はお医者様を批判するとか非難するということの方が、どちらかという和多いわけですが、その全く反対の姿勢を見せていただいたということで感心をいたしました。

先ほど菊川の家庭医療センターというのは、これは隣の町のことでございますけれども、これは先生方が見せてくださって、それからまだお医者さんの卵の人たちがそこにいらして、その外来の人を彼らが診ながら先生が指導するというので、どのような難事に対しても先生方が全部できるというそういうシステムなんですよ。どうしてもできない場合には総合病院にすぐにお知らせするというので、開業医は一人でやっていますけれども、これは10名余りの複数でやっていますから、何事も全部そこで済ませることができるという本当に驚くべき一種の医療における発明といたしますか、そうしたところがございまして、少ない中でもいかにしてお医者様の負担を軽減しつつ、かつ病気になった場合に適切に治療いただける、そういうシステムができたというのをあわせて考えなくちゃなりませんけれども、こうしたシステムが掛川にも広まっていきますと、この東遠の地域が医療の最先、新しい医療不足の中での最先地域になっていくんじゃないかという思いを強くした次第でございます。

それから何よりもすべてが健康でなくちゃいけないということで、自らの健康を管理すると、この思想がすごく大事だと思います。恐らくこういう思想が掛川や菊川にあるからこそ、つまり自主的に自分たちの健康を管理しようという思想があるからこそ、健康寿命が日本一になっているんじゃないかと思います。もちろん、それを支えているのにすばらしいお茶がある。深蒸し茶の場合には、もう菊川がこれは発祥の地だそうですけども、残念ながら掛川の深蒸し茶の方が今はよく知られております。しかし、知れば知るほど、菊川の良さもわかるというそういうふうになっておるわけでございます。

ともあれ、その掛川の深蒸し茶が科学的根拠によって健康にいいということが示されているわけでございますが、それをお茶だけではカロリーがありませんから、バランスをとるための食材が静岡県全体では 219 品目もございまして食材の王国であると。要するに健康にいいものがあって、それを感謝をもって食べて、かつ、もしものときにはお医者に働きやすい環境を整えるというふうな健康の好循環が起こっていると。これを上手に我々が PR をして、こういうふうにするのが健康寿命という今 WHO 世界保健機構が出されて、今回厚生労働省が日本全体を相手にして実施せられて、我々が日本一になった。

その日本一になった理由を掛川方式、あるいは菊川モデルというふうなことで発信できるというそういう「ふくしあ」、そして家庭医療制度、そして今二人の話を聞いて、これは防災に、有事においても、また平時においても、人々が元気に、またいざというときに備えられるそうした心構えを全体が持ち得る、育っていくための胚といいますか、一番の芽生えていくところですね、それを今日の当たりにはしているのではないかと、そういう感想を持った次第でございます。お二人様、どうもありがとうございました。

< 発言者 3 >

私たちの会社は掛川の東の方にありまして、オートバイの部品をつくっている会社であります。きょうは製造業の関係でということでこのような機会をいただいております。本当に今製造業は非常にここ 5 年、厳しい環境に置かれており、皆さん十分テレビでも見ておられるかというふうに思います。リーマンショック以降、輸出がかなり厳しくなって、さらにグローバル化ということで、どんどん産業が空洞化していくといっているようなかなり厳しい状態になっております。

私たちは掛川の産業人の集まりを 2010 年から始めております。掛川、菊川、さらには御前崎、牧之原といったこの周辺地域の製造業の若手経営者もしくは経営者の子どもである

後継者、30代から40代の者が集まって産業を盛り上げていこうというような集まりをつくっております。

日ごろからやはり掛川、菊川、この辺というと、やっぱりお茶の話が出て、農業であったり、お茶のまちというイメージがすごく強いのですが、実は工業、製造業もかなりたくさんあります。大手メーカーさんの工場なんかもありますし、私たちのような中小企業、部品をつくっている会社もたくさんあります。実はこの菊川のすぐそばに私たちのメンバーですけれども、独自の加工技術を持って生き残っているという会社が幾つかあります。

なかなか静岡の中でもものづくりというとやっぱり一番出てくるのが浜松であったり、磐田であったりということで、なかなかこの掛川、菊川地域というところの製造業というものあまり表に出てきていないというようなところがあります。先ほどからの話で、さっきの発言者1さん、発言者2さんのところでもあったのですが、やはり自助であったり、自分たちが動き出して、この厳しい環境で何とかしていこうということを私たちの製造業もやらないといけないんじゃないかというようなことで、特に前の世代は今まで日本の繁栄を築いてきたというのは十分僕たちもわかっているわけですが、これで産業構造が日本の製造業変わってきて、これからどういうふうに製造業をつくっていくのかというのは、やはり僕たちの30代、40代の若手が真剣に考えないといけないんじゃないかというようなことで集まっております。

やっぱりキーワードは同じだなと思います。まず自分たちで何ができるかということを考えていくと。確かに円高で輸出ができなくて生産が落ちるところ、これは僕ら自身ではどうにもできないところがあるわけですが、まだまだ日本でのものづくりの可能性というのもありますし、独自の技術をどう生かすかということの可能性があるんじゃないかというふうに思っております。

そういったところで、まず自分たちの技術力、どうやってもものづくりで生きていくのかというのをまず自社で考えたら、中小企業1社でできることというのは限られておりますので、それをメンバーが集まること、今掛川、菊川16社のメンバーで構成しております。ただ、ここの掛川の地域だけじゃなくて、実は金沢のメンバーとの交流をしたり、東京であったり、多摩であったり、あと京都の仲間というのもできてきております。そういったところで先ほどからも出ておりますけれども、ネットワークであったり、情報を交換しながら次の産業に向かってどういうアプローチをしていったらいいのか。またこの地域の産

業、製造業を日本に向けて発信していくといったような活動を今始めてきております。

掛川市長の松井さんにも何回もお出でいただきまして、いろんな激励のお言葉をいただいております。こういったことで、これから市であったり、地元には静岡理工科大学さんだったり静岡大学さん、工業ですばらしい学校がありますので、そういったところと中小企業もみずから連携しながら新しい仕事を切り開いていくといったようなことで、やはり製造業、この静岡でも全国で5番目ぐらいの規模で実は製造業強い地域になっております。それを今度若い私たちの世代で次の日本の製造業を盛り上げると。それをこの掛川、菊川の地域から発信させていくといったような取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

正直、なかなか厳しい環境で、しんどいところもあるわけですがけれども、やっぱり自分たちで歩いていく、先ほどの「自助」、自分たちが動き出すというのを私たちも考えて取り組んでいきたいというふうに思います。

< 発言者 4 >

私たちのクラブは旧小笠町、今は菊川市になりますが、小笠東小学校の学区の東地区を中心に活動しています。東地区のコミュニティセンターを拠点として、子供たちの笑顔のために、地域のために何かしたいと同じ思いを持った会員が集まり、地域に根付いた活動をしています。会員は現在 30 名、今年で活動を始めて 12 年目に入ります。

クラブの名前は若いお母さんをイメージして、若葉ということで付けたそうです。年齢層は幅広く、若いお母さんから子育てを終えたお母さん、またその上の先輩お母さんととても広く、先輩のお母さんからたくさんのアドバイスや知識をいただきながら活動しています。主な活動として児童館夏祭りの協力、七五三お祝いづくり、交通安全マスコットづくり、お祭りへの協力、クリスマスケーキづくり、小学校お汁粉づくり、節分会、花の寄せ植えなどがあります。

つい最近では 5 月 12 日に親子の集いを南地区のクラブさんと一緒に児童館の協力を得て開催しました。当日は 100 名近くの方に来ていただきました。普段お仕事で忙しいお父さんの姿もたくさんあり、家族で楽しく時間を過ごしてくれたことをとてもうれしく思いました。

毎月している活動では、東小学校での読み聞かせがあります。子供たちもすごく真剣に聞いてくれて、私も楽しみにしている活動の一つです。先輩の会員の方が「この読み聞か

せを聞いた子供たちが大人になり、お父さん、お母さんとなったときに、私も子供たちに読み聞かせがしたいと、自然に次の世代で引き継いでくれるとうれしい」とおっしゃっていました。また中越地震、東日本大震災の際には、先輩の会員の方を中心に、小学校や地区の方と協力して、文房具や日用品などを届けるなどの支援活動もさせていただきました。

私事になりますが、私がこのクラブに入ったきっかけは、クラブ主催の節分会でした。子供たちのために一生懸命動いてくれている会員の姿を見て、ここは地域の中でも子供たちがみんなに見守られて育てられている、とても温かいところだと感じました。私も主人も県外から来て、その当時子供も小さく、本当に不安だらけだったので、ほっとしたのを覚えています。そして今の自分は子育て、家事と自分のことで精いっぱいなのに、会員の方が人のために動いてくれている姿に感動して、上の子が1年生に入るのをきっかけに入会しました。

そんな子供たちも今では小学校5年生と小学校2年生の元気な男の子に育っています。いろんな活動を通して、子育ては自分一人ではなく、地域の人も見守ってくれているというのを子育て中のお母さんたちに伝えていきたいです。そして安心して、もっと地域の中に溶け込めるような活動も取り入れていきたいと思っています。

子供たちにも人と人とのつながりの大切さ、人を思いやる気持ち、自然に人のために動ける子になってほしいと願っています。今はゲームに熱中する子が多く、人間関係も薄くなってきているように思います。だからこそ、いろんな活動に参加して、人と関わることの楽しさ、地域の人みんなに愛されている、見守られているということをお母さんにも感じてほしいです。

最後になりますが、今自分が安心して暮らし、子育てができるのも、いろんな機関やたくさんの方の地域の支えがあるからだと思っております。この場を借りてお礼を言いたいです。本当にありがとうございます。そしてこれからもクラブ会員として活動していきたいと思っています。

<発言者3、発言者4に対する知事のコメント>

発言者3さんと発言者4さんからお話を承りまして、お二人のお話に共通しているのはクラブなんですね。産業人のクラブ、母親のクラブということで、そのクラブがつくれるそういう地域性があるんですね。コミュニティ、あるいは仲間、絆を強めることができるそういう人たちをつくれる、そういう風土性があるというのは、まずすばらしいことだと存じます。

そして発言者3さんの場合には、何となくものづくりと言えば、浜松の方にお株をとられていると。しかし見渡してみると、小さいながらも同じようにものづくりに、発言者3さんのところは大了なものでございまして、中小企業と謙遜されましたけれども、似たような仲間がいると、それで組んでみたら10をぱっと超えて、そしてあっという間に金沢だ、あるいは多摩だ、あるいは京都とも結びついたら。そうすると確実に新しい情報が入ってくるので、それを通して自分の部品に付加価値を付ける、そうしたら知恵をお互いに得られるというそうしたプラス思考を持たれているんですね。

私は掛川というところは、信用金庫が最初に確か生まれたところじゃないですか。これは何か新しいことをしようとしたときに、何といてもやっぱり投資をしなくちゃいけませんのでお金が必要です。そのお金を地域のそういう中小の企業のために出しましょうというのが信用金庫の役割なわけですがけれども、信用を差上げると、あなたにお金を貸す、そして何かやっごらんない、失敗しても仕方がない、しかし信用して、あなたを見込んでやるというそういう相手を信頼するというのがなければ、こういう金融機関というのは生まれなかったわけです。

今世界をごらんないませ。金融機関がお金だけをふやしたいということで利殖に走って、大きなしっぺ返しを受けておりますけれども、静岡県下でマネーゲームに走った銀行はどこにもありません。それはやはりお金というものは人を生かすために、あるいは社会をよくするために使うものだ、その基礎にもものづくりがある、そうして働いている人たちのために社会から預かったお金をまとめてお貸ししようというわけです。その精神が生きているということで、私はこのものづくりの産業人のクラブに、やっぱり今金融界から日本全体ではすばらしい成績なんですよ。実は静岡県の銀行はトップクラスですよ、世界の銀行の中で。

しかし銀行が栄えて、産業が減ってしまったら何もならないでしょう。銀行が国債を買ってれば安心かもしれませんが、それは人のためになりません。社会から預かっているお金ですから、それを社会に還元するのが私はこれが報徳の思想だと思うんですよ。ですから、この産業人クラブにそういう信用が上手について、そして新しい試みを支援するという本来の掛川の精神といったようなものがここでさらに力をつけるということを強く望みたいと思います。

そして今、発言者3さんのところでは、浜松に静岡大学の工学部がありますし、袋井には理工科大学がございまして。そういうところには研究者がいると同時に学生がいます。学

生はやがてものづくりの、あるいは社会に出てくるわけでございますね。そこと組んでやるということがとても大事です。やはり自分のところで経験を積んで、経験から新しいものを発見していくということと、やはり大学で研究をして、世界の最先端の知識を世の中に還元するというような仕事をしているその人たちが組むと、経験と知識がうまく組み合わせるとさらに強くなるので、こういう産学の協働、そうしたものを行政が支援していると産学官の三位一体の協力というふうなことが、この産業人クラブを通して育っていくことを強く望みたいと思います。

発言者4さんの母親のクラブというのはすばらしいですね。特に発言者4さんが外から来られて、そして不安に思っていたところに節分ですか、皆人のためにやってらっしゃるといって若いお母さん方を見て仲間に入って、そして助けられたということで、このお母さん方、実は今子育てで小学生のお子さんがいらっしゃる発言者4さんのような方と、それからもうそれを既に終えられた方がいらっしゃると、ここがいいと思うんですよ。母親として子どもを育てた経験をお持ちの方がそこに入っているということは、今初めて子供を産まれて、どういうふうにして育てるかという、その不安に対して、その経験を既にお持ちの方、母親経験者がアドバイスを与える、これほどの信頼できるアドバイスはないと思います。

そして日本にはその昔から桃太郎の話、これはどんぶりこ、どんぶりこと流れてきた、要するに自分の子じゃないわけですね。それをおばあちゃんが育てています。かぐや姫でもおじいちゃんがきれいな女の子を見つけて、その子をきつと育てたのはおじいちゃんというよりも、僕はおばあちゃんだったと思うんですよ。こういうふうにおばあさんは子供を育てた経験を今度自分の子ではない、地域の子だから一緒に育てて差し上げようという、それがこのクラブの中で生きていると。

今静岡県の人口が減っています。日本全体で減っていますが、その減り方は静岡県は日本全体よりは緩いのですけれども、しかし減っているんです。3年前は静岡県の人口は380万人でした。今は370万台です。もう「静岡県380万を代表して」というのは残念ながら今は「静岡県370万を代表して」と、10万減ってきて、だんだん、だんだんと富士山を下るみたいに下っていくんじゃないかと思って心配ではないんですが、このクラブで何とか歯止めをかけていただきたいと思っております、そして確実にこの発言者4さんは子供が大きくなって、そのときにまたクラブの仲間として発言者4さんがそうであったような、未来の発言者4さんの役に立つに違いないと、そういう人たちの世代間の地域の

子を地域で育てるというクラブのあり方、この精神ですね、これがいい。頑張ってください。ありがとうございました。

<発言者5>

今日入り口のところでパンフレットをお分けしましたけど、これが今僕がおぎやあと産まれて58年育ったところの環境のすべてであります。皆様御存じのように、茶の山の中腹に「茶」の文字が書いてあるところが、御存じかと思えますけど、東山というところですよ。それこそ、ここ2〜3年ですか、今まで、先ほど言ったようにおぎやあと産まれた東山がすごいよという地区に生まれ変わったというか、今まで親から言われたり、おじいちゃんから言われたりして、知らぬ間に何の疑いもなしに草を刈ったり、お茶を刈ったり、いろんなことをやってきたわけですけど、それがある日突然ですね、「この東山ってすごいね」と言われたんですよ。

また後半の方でその話を具体的にしますけど、この東山の「見つけよう」というところがあると思うんですけど、その欄が一番今回僕たちもびっくりしたり、地区を見直した一つの例であります。カケガワバッタしかり、こういうビフチョウの植物、そういうものが自分たちが親から言われたり、先ほど言ったようにおじいちゃんから言われて、草刈ったり、お茶刈ったり、そういうことの営みの中で自然が残っていた。今までは自然にやってきたことを、今度は皆さんで盛り上げてやっていくにはどうしたらいいかという僕の中ではちょっと理解できないというか、みんなに伝えることのできない大きな問題かなというように思っております。

それで僕がここで座っているのも、掛川市は各地域に地域塾というのを設けまして、その地区の特性であり、地区の特産であり、いろんなものを宣伝したり、見守るというようなことを市全体でやっております。で、僕は去年の7月から地域塾の塾長ということで、やれということでここにいるわけです。それで、僕が今回ここに来て、皆さんに胸を張って言えることが二つあります。

まず第一が、第17回の環境保全型推進コンクールというものが関東農政局の中でありました。おかげさまで去年その受賞ということで優秀賞をいただきました。すごく何というか、環境がいいところだよ、それを守っていますよということで、日本の中から、関東の中からでしょうが、認められたというのはすごくうれしいことです。先ほど言ったように、今後どうして守っていけばいいのか。よく市長さんとも相談しながら、考えていかないと

いけない大きな問題だと思っております。

もう一つが、今年の話ですけど、国際学会というか、国連大学の学会なんですけど草地学会、中部国際空港で第4回の日中韓の草地会議というものがあまして、それに僕も参加させていただきました。東山というもの、それとか僕たちが今までやってきたことを発表していただいたり、僕もそこにいたわけですけど、そのときに先ほどから言っているように、東山で何の疑いもせず何十年何百年とやっていたことが国際的、日中韓の中ではすごいよとほめられて、それで僕もその学会から出てきた学者の方と話をしても、すごく熱く語られ、こちらも熱く答えられたというところが、たかが花一輪、バッター一匹というか、そんな話だったんですけど、それをすごいことだということも再認識したし、どう今後守っていきたいのかというところがすごく重荷に考えていたし、今後重荷になると思います。

僕の方で一つ御提案というか、一つだけお願いしたいのは、今東山とか今の環境の中で急に降って湧いたような話の一つだけあります。それは農業遺産ということで、国際の今やっている富士山登録と同じようなものかもしれませんが、詳しいことは県の方とか関東農政局、その方に聞いてもらう方が僕よりも詳しく知っているんですけど、農業遺産としての世界遺産の方へどうかという話を今言われています。僕の中ではというか僕たちの中では、今まで普通の暮らしをやってきたにもかかわらず、こんなに世間から注目されたり、ほめられたりして、なおかつもっとほめられるのはありがたいんだけど、多少疑問もあるんです。

一応今僕たちの中ではそういうことも言われているし、それだけの地区に財産がある。銘々が財産でなくて、本当に皆さんが今まで苦労して何十年何百年と草を刈ったりいろんなことをやった東山に「茶」の文字を昭和6年にやったときから、本当に今の形は見えなかったかもしれないんだけど、結果が出ている。そういう形の中で、今後ともどう守り、どう育てるかは皆さんとともにやりたいと思うし、ただこれもやっぱり健全なる農業、皆さんが農業やるために張り合いとなるものが収入であったり、気持ちであったりするわけですけど、その元の気持ちがある農業がやれば、今の環境はすべて整うのではないかなと思っています。

そのためにもやっぱり関係機関、国、県、市、皆さんがそういう農業というものに関してもう少しちょっと見方を変えたりしていただければ、もう少し金銭じゃなくて気持ちの面でもやり直そう、もう1回頑張ろう、もう1回何とかなるでしょうというような形にな

れば、もう少し良くなるのではないかなと思っています。

皆さんみたいにまとまった話はできませんでしたが、ただ一つだけ、僕がおぎやあと生まれた東山というのは、これだけいいところに生まれたというのは、本当にここ1～2年で実感として湧いてますし、その中で皆さんからこういうお祝いというか、よかったねということと言われる地区に生まれたことに感謝して、僕の言葉とさせていただきます。

<発言者6>

私は菊川市の市役所のすぐ横で農業支援の会社をしております。隣で発言者5さんが大変楽しいお話をしてくださったので、ちょっと堅苦しい話になってしまうかもしれないんですけども、私自身は産業ロボットの開発を10年ほどしてまいりまして、その間、2人子供ももうけました。その子育てをしながら、やはり子供とともに積極的に仕事をしたいなと思うようになって、いろいろ仕事というか、事業というか、そういうのを模索していたときに、目の前にすばらしい農業があるじゃないかと。菊川市に住んでいるんですけども、景色もすばらしいですし、文化もすばらしいですし、生産者の方も頑張っている姿を日々見ている、やはり農業の事業をやりたいという思いが強くなりました。で、静岡大学の社会人講座が開かれまして、そこを受けて、農業事業を始めたのが2年半前になります。

農業のどこがすばしいかといいますと、やはり教育もさることながら、食をつくっていますので健康、それから雇用ですね、今工業の方は発言者3さんもおっしゃったように、どんどん工場が海外へ出ていく中で、農業だけはやはり土地があつての農業、水耕栽培とかもありますけれども、やはり人が入っていかなければ生産できない状況に変わりはありませんので、やはり雇用、この三つの日本が抱える大きな問題を一気に解決できる力がある唯一の産業が農業であり、その農業が目の前で衰えていってしまっているといったら、元気な苗を見ていて、何か私の微力ながらですけども、工業で培った知識とかものづくりの経験を生かして、農業をもう1回盛り上げたいなと思って始めたのが当社、母親目線で事業をしようという思いでやっております。

どんな事業をやっているかといいますと、女性ビジネスプランコンテストでも受賞させていただいた事業なんですけど、今農産物の流通というのが非常に困った状態、皆さんアンハッピーな状態にあります。

どんな状態かといいますと、もちろん生産者の方々は価格をどんどん下げられてしまっ

てますし、今度購買者の人はそれで潤っているのかというと、一部小売は潤っているよう
ですけれども、潤ってなくてですね、安定して供給されないで困っている業者さんがほと
んどになります。今度真ん中、市場とか商社さん、バイヤーさんという方々、この方々じ
ゃあもうかっているのかというと、ここもまたばたばたつづれているというのが現状でし
て、その辺がやはりリスクですね。農産物というのは、ほかの商品と違って在庫が持てな
いですし、なかなか気候の変動とか、突発的な天災とかで、なかなか安定的に生産がで
きないということもあって、なかなかこの三者ですね、生産者とか中に入る方々、最終的に
大量に使う方々、この三者がハッピーな状態ではないというのが今の流通です。

ですので我々、そこの問題に気づきまして、生産者と、また中の人たちともうまくやり
たいと思っているんですけれども、購買者の間に入って、人とITをうまく使って、もう
1回つなぎ直そうというのが我々進めている事業で、その名前を「ベジプロバイダー事業」
という新しい名前をつくりまして推し進めております。

ですので、皆さんの中でお隣に売り先に困った生産者さんとか、何をつくっていいかわ
からない、そこもすごい問題でして、どうしても購買者が、今私たちが動いていて、需給
のミスマッチが非常に多いです。購買者はこれを欲しいんだけど、生産者がつくっていな
いとか、そうするとすごい高い値で流通しているんだけど、生産者はそれに全く気づ
いていないで、ほかのものをつくっていると、そういうこともありますし、あとはもう
一つ、これは本当に知事にもお願いしたいんですけれども、流通の中で物流というのがあ
ります。

生産しました、売り先も見つかりました、その後物を運ぶという作業があるんですけど、
この運ぶという作業が結構難しくて、静岡の場合、どうしても東名があり、新東名があり、
いい状態にあると思うんですけど、通り過ぎちゃう路線が多いです。名古屋、大阪から東
京へ走る車が通り過ぎてしまう。静岡発のなかなか車がないのが現状で、我々も農協さん
の便に一部載せていただいて、まず大田市場に出した後に、そこから分散してもらおうとい
うようなことをやっております、なかなか物流コストの削減ができていないのが現状で
すね。そんな問題だらけの流通を新しい流通に変えようとしているのが我々です。

本当に農業、最初に申しましたように社会基盤の価値のある産業ですので、日本の明る
い未来は農業からつくり出されるんじゃないかと思っているぐらい農業をしっかり立ち直
らせることが日本の力につながるかなと思っておりますので、皆さんと一緒に積極的に楽
しい農業にしていきたいなと思っていますので、よろしくお願ひします。

<発言者5、発言者6に対する知事のコメント>

それぞれ掛川の発言者5さんと菊川の発言者6さん、お二人に共通しているのは言うまでもなく農業ということでございますが、発言者5さんの農業は、伝統的にずっと受け継がれてきたこの東山におけるお茶を継承されてこられて、今それぞれの地域で地域の宝物探しというのが起こっておりますけれども、恐らくそうしたものの一環で東山地域塾というのを立ち上げられ、そして自分たちがやってきた。茶、草場でさまざまな生き物が生息していると。もちろん秋の七草のこともありますけれども、先ほど掛川という名前を冠したバッタもいて、これが極めて珍しいというふうなことで学者から注目されると。

さらにまた、この景観と土地の利用というもののモデルを世界じゅうで今探しているんですよ。それがたまたま草地、これはお茶とお茶との間に敷くんですかね。そういう形で、その生えていたものを敷くことを通して自然を実は循環させていたということが大変注目されて、世界遺産になるというところまで驚かされているということなんですが、しかしそれは発言者5さん一人の力というよりも、要するに発言者5さんの世代に至るまでのもう何十代、数百年にわたるその蓄積の帰結が、それほどに価値の高い宝であったということなわけですね。

これは本当に静岡県にとっても、もちろん東山の地区、あるいは掛川の地区にとっても誇りであると同時に、日本の誇りでもあります。我々の富士山の世界遺産というのはユネスコが顕彰するんですけれども、世界農業遺産というのは、これは国連のFAO、食糧農業機関というものが土地利用と景観において地球上におけるモデルというものを表彰する、顕彰するものでございまして、全く他意はないですよ。ただただすばらしいと。結局東山の名前が売れるという、東山のお茶が売れると。そういう恐らく波及効果もあるであろうと思いますが、何と云ってもこれまでのやり方というのがすごいことですよ。

しかし、それはもちろんほかのところと比較されているわけですね。だから、ほかのところを見られれば良いと思うんですよ。だからもうぜひ発言者5さんには地域塾の塾長として富士山静岡空港を活用していただきまして、世界各地のお茶を中心にした農業、相当に粗っぽい農業があらこちらで広がっております。

ですから、そういう粗っぽい農業をしているところから、アフリカであるとかアジアの幾つかのところから来られると、日本の農業はまるで庭づくりに見えるわけです。芸術に見えるんです、本当によく世話をしているから。ですから種をまいて収穫して落ち穂を拾

うという 19 世紀のミレーという人の絵がありますけれども、そういう粗放農業をやっている人から見ると、徹底的に手間暇をかけるというのは庭づくりみたいなので園芸だと言っている。つまり庭というのは一つの芸術ですから、そういうふうに見えるんですね。

ですから、その価値を知るには、むしろ外を見ればいいと思うし、そして外の人に教える価値のあるものだとも思います。そういうものとしてぜひ発言者 5 さんには、より一層の塾長としての後進を指導していただきたいというふうに思う次第でございます。

それから発言者 6 さんはもうすばらしい御経歴の持ち主で、そしてよき伴侶が菊川にお住まいになっておられるということでこちらに来られたということで、本当に発言者 6 さんにとって幸運でしたね。旦那さんにとっても、菊川にとっても発言者 6 さんが来られたのは幸運であったということで、良き出会いがここにあったと思うんですが、文字どおり発言者 5 さんがお茶の農家で、お茶をつくる生産者と、お茶を市場に流通させる茶商というのがございます。さらにまたそのお茶を全国各地、あるいは世界に運ぶ物流というのがあります。

こうしたものが、そのお茶農家にとっては、いったん茶商にお渡しすれば後はもうそれっきり、また次の年と、あるいは二番茶、三番茶を摘むというのを待つだけだったんですけども、実はこのところをもう少し注意深く見た方がいいですよというお話を発言者 6 さんがなさっておられるわけです。

そして、この流通のところにメスを入れてみると、あるいは物流にもう少し関心を持つと、生産者がきっちりと仕事をしたことの見返りが得られるものになり得るので、そういうお手伝いをしたいというふうにおっしゃっているんですね。

で、カタカナ語がたくさん出てくるので、「ベジプロバイダー」とか、「ベジ」は何かの略ですか。野菜の略で「ベジ」、「プロバイダー」というのは供給するという意味でしょうか。ですからそのつくったものを供給する、そうした仲人ですね、その仲人の役割を菊川のためにやって差し上げたい、こうおっしゃっているわけです。

そしてカタカナ語ができるということは世界を見ているということなんですよ。実際 N A S A でも働かれたことがあるということですが、イギリスにいらしたこともあるということで、その力は国際的ですので、その力を菊川のために、あるいはこの地域のためにしたいと。先ほど静岡県のことを言われましたが、静岡県は通過されるだけだと、物流がずっと通る。しかし変わってきましたよ。大体人知れず開通したのがありますね。わかっている人がいる、新東名です。まだ乗られてない方がいらっしゃるかもしれませんけれど

も、まあ乗ってみてください。

これは1969年、すなわち昭和44年、今から43年前にできた東名と比べることができませんから。43年となれば、まだ発言者6さんは生まれていっしょらないですよ。だからそれぐらい前の話です。その間に日本の土木事業はものすごく進歩しました。あの新東名というのはいっぱい賞をとっているんですよ。土木の芸術品です。ですから東名は通過するだけ、要するに静岡は通過されるだけのための道路だったんですけれども、あの道路を走るとすごいなと思う。そしてトイレに行くとか、あるいはちょっと食事をするとか、飲み物を飲みたいというSAとかPAがあるんですが、それがまたすごいんですね。しかも、この新東名は静岡県だけしか開通してないんです。御殿場から神奈川県に行ったら土地も放ったらかしですよ。愛知県は中途半端で放ったらかし。

そして平成24年度の最大のイベントは何か。昨年来テレビをかければ出てきていたあのスカイツリーでしょう。もう公共の電波を使って、記者や何が上がって、「5月22日オープンします」「間もなくこれは皆様方がここに上れますよ」ということをキャッキヤ言って、そして民放から何から「今日は富士山が見えます」「今日は富士山が見えませんが、下の方はアリより小さく見えます」とか、そして沖縄から北海道まで、そのスカイツリーのことを知らない人はいないとなって、そして5月22日にオープンして1カ月、その下には街ができてソラマチというんですが、東京ソラマチ、そこに581万人も来たと自慢しているわけです。

ところが新東名はどうですか。新東名は本当は来年の今ごろに開通の予定だったんです。それが前倒しでしょう。で初夏に開通というふうに東名を走っていた人はアナウンスをご覧になったはずですよ。去年の暮れ、いや今年の1月まで初夏、今ごろに開通するということになった。ところが実際4月14日でしょう。前倒しですから、だれも知らん。首都圏なんかできてないと思っているから、もう関西の人なんか、「道路なんて皆先送りですよ」と、皆そういうふうになっている。信じてもらうのが大変でした。しかも4月14日、これはもうどしゃ降り、カメラから見ても雨嵐ですから、もう全然だめだった。午後晴れましたけど。

ところがロコミで広まりまして、SA、PAに行ったらおいしいものが置いてあるし、景色はいいし、道路は走りやすいし、SA、PAにだけ来た人が1カ月で593万人。先ほど581万人と言ったでしょう。12万人も多いのです。つまりこれこそが本当に隠れた魅力です。

何に惹かれて来たか、食材です。その食材を日本一持っているのが静岡県なので、だから今までの流通とは違って、ここで止まる人が出てきた、留まる人ですね。物を買う人が出てきた。これは茶商だとか、茶商の人がいらっしやると申しわけないですが、JAだとか、そこに後は任せてしまえうというふうなことでなくて、ちゃんと生産者の方にお金が回るようにできますよということをおっしゃっていただいた。

けどどういうふうにしたらできるかというのは、どうもいろいろできそうだがということがわかっていても、なかなかできないものです。そういうときにやはり専門家が必要で、この発言者6さんはそういうことのできる人です。大いに彼女と一緒に菊川も掛川も一緒になってやっていただいて、こちらの農産物、なかんずく東山のお茶ですね。そういうところにお越しいただいて、そして見ていただくと。そうすると掛川、あるいは菊川には見るべき景色、あるいは名所旧跡もたくさんございます。そうしたところもあわせて見ていただき、また泊まっていたり、あるいはそこで食事をしていただいたり、町の人に触れていただいて魅力が上がるというそういうことになるのではないかと。

ですからこれから農業は、今まで農業は工業よりも、工業よりも商業の方が、三次産業の方がいいと、進んでいると思われていた。ところが一番の元は、ああいう大きな災害が起こると食糧だと、あるいは住まいだと、あるいは着の身着のままということじゃなくて、ちゃんと物が着られるというそういう衣食住がきちっとしていることだと。

何といっても食だと。それが健康にも、また労働をつくるということにもなりますよ。これが新しい産業として、いわば流通と結びつく、あるいはコンピューターや何かと結びつく、情報と結びつけば、一次産業というよりも二次産業、三次産業が全部入った1足す2足す3、あるいは $1 \times 2 \times 3$ は6になります。その全体、これを支える一番基礎になって、ここに新しい魅力の先端が生み出せるということで、カタカナ語を使いながらハイカラな農業というのを発言者6さんが今言っていたらいい。

私はこの二人は見事な組み合わせだと。伝統の発言者5さん、革新の発言者6さん、この両方持っていることが大事です。やはり素材をうちは持っている。その素材を生かす力を発言者6さんが持っておられると。こういうこの組み合わせ、新しい結合、新結合ですね。この新しい組み合わせというものの今日はその可能性を感じたと。これは世界性を持っているということです。

「もったいない」とか、あるいは「ツナミ」とか、あるいは「ヤクザ」とか、「ダンゴウ」という言葉は世界じゅうに知られている、いわゆる世界語ですね。そこに「サトヤマ」と

というのは実はどこにでもあるように思うでしょう。実はそうじゃなかった。だから里山は「サトヤマ」という以外にないということで、この言葉が今国際語になりつつあります。そういうことを推進している世界の農業をよく知っている学者、トップクラスの学者です。その方がその発言者6さんをお招きなさって発表しました。

そうすると、もう韓国でも農業をやっているからあるように思うでしょう。実際はもう中国でもそうですけれども、農薬をばあーと撒いて、とにかくもうければいいとか、たくさん効率が上がればいいというふうなことをしているので、そこにこんなにすばらしいものが、実は自然を上手に循環させながらやっているということで、もう目をシロクロさせる。欧米人は目をシロアオさせるという、青い瞳ですから。そういうことになっているということで、ですからこれは世界の宝物、自分たちが知らなかった宝物が今顔を出しつつあるということで、いいお話をいただいたと思います。どうもありがとうございました。

<発言者6>

一つ知事のコメントを聞いてちょっと言い忘れたなと思ったのは、需給のバランスのところで、やはり静岡の食材って、もう本当に知事がおっしゃったようにすばらしい食材とか食材の数がありまして、我々驚いているのが、普通のレタスだとかキャベツだとか、いろんなものと一緒に、そのすばらしいこだわり野菜をサンプルで付けて送るんです。そうすると必ず受注になります。それぐらい静岡の食材のすばらしさというのは、まず知られてなかったことにびっくりしましたし、やはり1回食していただければ必ず注文になるので、PRがやはり足りてないんだなというのを実感しているところですね。

<発言者6に対する知事のコメント>

いやもう発言者6さんが言われるとおりになんですよ。実際農水省ですか、これは食糧自給率を上げなさいということで、全国的にいろいろと運動なされたでしょう。つまりカロリーベースで日本の自給率は4割を切っています。だからこれを4割5分、あるいは5割にまで上げたいと。これをずっと言われて、静岡の人は特に東京に対しては素直ですからね、食糧自給率どうだろうと。お茶はカロリーがないから、カロリーベースで入れると全然入らないなということで、それも文句言わない。私のようにカロリー過多で困っている者は、東京を見たら東京の皆様方も実はカロリー過多で困っている。

カロリー過多で困っているのは、私のような運動不足の者だけじゃなくて、動物、例え

ばカラスですね、カラスの群団が埼玉あたりから東京の銀座あたりに出勤してくるわけです、朝。そして残飯をあさって帰るわけですね、人が出勤する前に。インドから来た方が、インドのカラスより何で日本のカラスはあんなに肥えているんだとおっしゃった。あれはカラスじゃないと言ったというばかみみたいな話があるぐらい、それぐらい捨てているんですよ。カロリー過多なんです、日本は。

ですからカロリー過多というのは健康によくはないことは皆知っています。どうしたらいいか。種類でしょう。いろいろなものをバランスよく食べるということは子供のときから言われている。野菜、お肉、果物、好き嫌いを言っではなりません。その種類を見たら幾つありますかと言ったら、うちの部長さんも知らなかった、あるいは関心持たなかった、そういう目を持たなかった。それを今発言者6さんがすごいですよとおっしゃった。数えてみたら167の農産物があった。海産物もちろんサクラエビを始め、505キロの海岸線がありますから、合計219品目ですよ。日本一だったんですね、食材の王国ということで。

しかもそれが、例えばよく知られているのはクラウンメロン、もちろんお茶は言うまでもありませんけれども、あるいは次郎柿もそうですし、サクラエビもそうです。特に農産物はいろいろな野菜も含めて全部こだわり、品質においてもものすごくレベルが高い。ですから、農芸品という言葉がぴったりなんです。それをいったん食するとほかのものが食べにくくなる。つまり味覚が肥えるんです。舌が肥えるんですね。これは一種の芸術です。食文化の芸術は舌ですから、最後は。ですから本当においしいものを旬のものでいただいて、しかも種類が多いので、非常においしいものがある。

だから皇室がしょっちゅうこちらに行幸賜る。どうしてか、その理由の一端はそこにあると思っっているんですが、お茶でも今回浜松のお茶を献上申し上げました。しかし、これは毎年違うところ、順番に。それも浜松というか、静岡のお茶がおいしいということで、それを順番に、1カ所じゃないんですから、それぞれ皆特徴があります。それを献上させていただいている。

「紅ほっぺ」もそうでしょう。あれだって大学で、うちの農業大学校ですが、そこで開発に成功したものです。この間、天皇陛下が食されて、宮内庁から「おいしかったと川勝に伝えなさい」ということです。今まで「とちおとめ」しか食べておられなかったんです。「とちおとめ」を抜いたということなんです。

そういうわけでいろいろと探してみるとあるということで、これを今の発言者6さんのコメントはすごく重要なことで、その一つ一つのものが実はほかの地域やほかの国のもの

と比べたら、もう形から味から、要するに芸術的なんです。しかも芸術は見ても腹が膨れませんが、胸が一杯になるだけで、こちらは腹も膨れるというわけで、花も実もあるふじのくに静岡県、山は富士、食は静岡日本一ということです。そういうことでございますので、大いに自信を持ちましょう。

<発言者3>

今日はちょっと言っておかないといけないなということがありまして、全日本学生フォーミュラー大会というのが実はエコパというところで開かれていることを御存じの方がいますか。何名かおられますね。多分ほとんどコマーシャルというのはやってないとは思いますが、日本の大学生が自分たちで自動車をつくると。自動車をつくって、それでレースをするというのが、実はエコパの駐車場でやられるというイベントが、もう12回目ぐらいになっております。なかなか知られていないと思うんですが、今年も82校、全国の82校が来る、あと海外からも12校の方がこの掛川の地に集まってエコパで競技会をやるというようなイベントがあります。

延べ人数で、学生だけでも6,500人の方が来るというようなイベントがあります。全体でも1万人ぐらいになる。そのころになると掛川のホテルもいっぱいになりますし、まちもいろいろ潤うというようなイベントがあります。日本の大学生エンジニアが、やはりこのものづくりの静岡の地を目指して来るというようなイベントがあります。ことしが9月の3日から7日というところでエコパの駐車場で開催なので、ぜひまた学生のものづくり、ただ物をつくるだけではなくて、設計開発をして、経済性も自分たちで考える、さらに製作費のところのスポンサーなんかは自分たちで、うちもスポンサーになっているんですが、企業を回って自分たちの活動を支援してくださいというのを大学生がやると。ただつくるだけではなくて、ものづくりのお金の面まで勉強するというイベントをやっております。ぜひそういったところを地元の静岡理工科大学さんだったり、静大さんも参加しております。地域でも応援していきたいなというふうに思います。

知事をお願いしたいと思うのは、実はエコパで、小笠山のところで開催するというのをよそに移したいという動きが、ここ数年でいろいろと聞いております。いろんな事情もあるのかもしれませんが、当面はエコパでやるというようなことで決まっているようで、ぜひものづくりのまちである静岡県というものをさらに強く印象づけるというのがありますし、将来のエンジニアを育てるという面では、ぜひ地域でも応援していきたいな

と、僕ら産業界の方も応援していきたいというふうに思いますので、ぜひ行政の方でもお願いをします。

<発言者3に対する知事のコメント>

そうなんです。栃木県かな、関東に持っていきたいという動きがありまして、断固拒否して、こちらでいましばらくはやられるということになりまして、この全日本フォーミュラーで理工科大学が1位取ったんですね、この間。すごいですよ。ですから発言者3さんがおっしゃったように、まだよく知られてないということが残念なので、ぜひ地域の方々、またその宣伝が下手なのかもしれませんが、上手に、今度いつですか。

<発言者3>

今年は9月3日から7日ということで、学生のコンテストということで、あまりメディアに出したりというのはやってなかったの。

<知事>

それはちょっと報道関係者に言っておかないといけませんね。今日来ておられるなら、ぜひそれはよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それから今ものづくりの話が出ましたが、ものづくりは何となく自動車だとか、あるいは家電製品だとか、しかし農産物だってもものづくりじゃありませんか。会社は自分でちゃんと販売所をつくって売っているじゃありませんか。

ですから、農業をやっている方も、昔はすぐ近くの市場で売れたわけですけども、今はもう全日本が相手です。あるいは場合によっては海外が相手であります。ですから流通について、ものを売るということについて、やや無頓着になるきらいがありますので、私は何も東京に行って売って、その分だけ輸送コストがかかってますから、その輸送コストがかかっているだけじゃなくて二酸化炭素も出しているんですよ。欲しければ買いにいらっしやい。ここで買えば、隣に買いたいもの以外に買いたいものが出てきますので、何しろ種類が日本一ですから、買いたければいらっしやいという、そう簡単に外に出さないぐらいの気持ちで、それをいかにして来れるかというためには、空の道も、それから陸の道、それから海の道、いろいろとそういうネットワークを、物流を、今までは出ていこうでした、あるいは通過する方でしたけれども、こちらに引き寄せるために何か一つきっかけ

になると。

掛川の深蒸し茶が売れるというのも、東京にどんどん売るといふふうにするんじゃなくて、こちらで買っていただくといふふうにするのでは大分違います。持って行ってそこで売ったらそれだけですけれども、来てくださったら、ほかの、そうですね、掛川には麦とろのうまいところがありますよね、本丸のところ。何しろ「掛川城下本丸ととろろごはんの味のうまさを」という歌があるぐらい、そういうものがあって、そういうものを食べて帰るといふことで、付加的な方がばあっと地域についていくといふことなんですね。

ですから皆様方、ここは日本の中心ですから、どこからでも来れるんです。何もわざわざ西や東に持っていくことはないぐらいのつもりで、どっちにしろ拒否する必要はありませんけれども、惹き付けるというその力を生かすと。そしてものづくりと同時にものを上手に使って売っていくといふ、こういうノウハウを我々は身につけなくちゃならないと思います。

<傍聴者1>

一つの提案と一つの情報をお願いします。

一つの提案は、先ほど発言者1さんが防災の関係で言っていましたが、いろいろこれまで「自助」「共助」「公助」という言葉を使ってましたが、この前研修やったときに「近助」という言葉、近くで助け合うという言葉に私は大変感動しました。地元で言ったら、みんながうんと大きくなすいてくれました。これをぜひ私は静岡県にもっとPRした方がいいと思います。非定住者も同じアパートの中で住んでいて、なかなか地元の自治会で一緒にやれない。しかし「近助」、お互いが隣同士助け合うというのは、私はこれは非常にいい方法だと思いますので、これは提案をさせていただき、ぜひトップがこの「近助」、近く同士が助け合うといふ、これをぜひお願いをしたいなと思います。

もう一つは要望です。県でつくる施設に県産材を使うという補助があるのは知っていますが、設計士さんに聞くと、静岡県の木を使うと単価が高くなっちゃうと。だからよその岐阜県の桧を使ったりとか、そういうふうにするんだよといふことで言われます。近い将来掛川にも特別支援学校をつくっていただける方向で今ありますが、ぜひそれにはそんなコストのことを言われますと、よその県の木を使っちゃいますので、県産材を使ってやれるように、そういう予算の補助金を特別に取ってもらわないと、県産材は使えないといふそういう話になってしまうので、ぜひ補助率も高めていただきたい。以上お願いいたします。

す。

<傍聴者1に対する知事のコメント>

「近助」はこれでやっていきましょう、掛川発「近助」で。

それから県産材は、これは本県のいわゆる天竜美林だとか杉、桧は8割方が全部今でもすぐ使えるんですよ。年間100万立方メートルぐらい使えるんです。実際はその3分の1も使っていません。ですから45万という、四捨五入すれば50、50を四捨五入すれば100万ということで、私は50万立米を使いたいと言ったんですが、なかなか抵抗勢力が強くて、45という数字にしているんですが、今のところ28万ぐらいです。

何としてでもこの静岡県下の杉、桧が「使ってくれ、使ってくれ」という声なき声が聞こえてきて、それで昨日、実は佐久間の奥の方に入りまして、そこに金原治山治水財団というのがあります。そこでどういうふうになれば単価を下げられるかということで激論というか、熱い熱い議論を聞かせていただいて、それに私も大いに感銘を受けまして、単価を下げる努力をし、しかしある程度最初は初期投資が要ります。

例えば下ろしてくるのに大きな機械が入ります。機械が入るためには道ができてないといけません。路網と言います。この山の中に道をつける、その機械をハーベスタ、ガウスというんですけど、これ自体は高い機械です。それがあるとものすごくばあっと木を切りながら道を切り開いていくわけです。そうすると木を簡単に運び出せるんですね。

ですから初期投資は高くても、とにかく材木を外に出し、なるべく早い段階で加工して、丸太のままですと重たいし、かつ丸ですから体積をたくさんとります。それを全部初めから四角にしまえばきっちり積めますから、角材にするための工場が山から下りたところにできればいいとか、あるいは最初から乾燥させてしまえば外材にも勝るとか、いろいろと理屈が見えてきましたので、私は県産材を使うということが、農業と同時に大地の恵みで育っているものを使っていくことが、我々の先人が植えたそのことに対する恩返しでもあるし、使命であると思っておりますので、特別支援学校、県産材を使うということで、今日は戦略課からも来ておりますので、もううなずいていますから、まず大丈夫です。岐阜産のものは使わないと。岐阜県の人には申しわけない。岐阜県から持ってくる、その分だけコストがかかりますから、そういうわけで県産材を使うようにいたします。

<傍聴者2>

知事にお願ひがあります。ほかの御意見の方もいらっしゃると思いますが、幾つかありますので簡単にいきます。知事の回答は必要ありません。御検討ください。

1点目が原発問題、いろいろ騒がれておりますけれども、私は中部電力はほかの電力会社に比べては、まあまあやっているんじゃないかと思ひますけれども、ただ今の福島の見状を見ますと、20キロ圏内に住むものとしては、やっぱり不安です。そういうことで、想定外が起こったときにどうしてくれるのか、その辺を中部電力にぜひ検討いただくようにお願いしたいと思ひます。

それから、今日は発言者5さんですね、お茶の農家の方が来られて、いい話を聞かさせていただいたんですけれども、私長野の出で40年以上前にこの静岡に来て、その新茶というものを味あわせてもらいました。その味は今でも忘れません。その味が最近知事は献上茶を飲まれたということですが、ちょっとその40年前に私が味わった味に近いものかどうか、疑っておるんですけれども、先ほど官学協働という話がございましたので、県の試験場、天皇が訪れた試験場がありますので、ぜひそこで本当に昔のお茶の味を回復できるような研究を、国の試験場もありますので、その辺の研究をして、おいしいものだったら売れると思ひます、何もしなくても。

それから次は、新東名の話も出ました。新東名は、実は東名から2キロほどのところに住んでおるんですけれども、私も喜んでおります。なぜかと言いますと、排ガスが減るんじゃないかと期待しております。これは雨のかからないところにある木の葉っぱ、それから網戸、こういうものは1年もたつと真っ黒になります。そういうことで、この辺は風が強いので、ある程度薄められているんじゃないかと思ひますけれども、今度の新東名は山間部を走っています。ということで、窪地とかそういうところが、風のたまるようなところがあるんじゃないかと思ひますので、これについては調査を始めていただきたいと思ひます。

それから、これは警察の話ですけれども、十字路の交差点に歩道が設置されております。ただし4カ所でなくて2カ所というような変則的な歩道もありますので、これは歩行者に過大な負担を強いていると思ひます。自己責任も、歩道を渡らないで事故に遭えば過大になると思ひます。そういうことで警察に本当に二つでいいのか、検討を命じていただきたいと思ひます。

それから最後ですけれども、自転車の傘差しが禁止になりました。高校生の自転車通学を見ていると、きょうも雨降っておりましたけれども、雨に濡れて走っておりました。そ

ういうことで、これは全国的な話で大変難しいかと思うんですけども、人通りの少ないところでは傘差しを緩和するような、県独自でそういうことを検討いただければありがたいと思います。

<傍聴者3>

ちょっとお願いがあるんですけど、僕はウォーキングというか、よく歩いているんですね。歩いている関係で、何もすることがないのでいろんなことを考えるんですけど、歩いて成功した人ということで伊能忠敬のことを思ったんですよ。その過程で大東町って今の掛川市ですけど、そこに伊能忠敬が泊まった家という家があるんです。静岡空港がちょっと寂しい状態という感じがしているものですから、静岡空港からウォーキング大会をやったらどうだろうかという提案をしたい。静岡空港から伊能忠敬の泊まった家まで歩いてみようじゃないか、こんな企画なんです。

それで、マラソン大会は全国各地でやっていますけど、マラソン大会だと秒を競う話なんですけど、ウォーキング大会ですから、若者でなくても、おじいさん、おばあさんでも、子供さんでもだれでも参加できると、そんな話なんですね。もちろんキロ数がありますから、全員とはいきませんが、その伊能忠敬が泊まった家まで何キロ何十何メートルと、それをぴったり当てると、地図をつくるという関係ですが。そういう人に優勝という賞状を出すようなウォーキング大会を企画することによって、全国から人が集まってくる牧之原の空港になるんじゃないかなって、そんな提案をしたいんですけど、よろしく願います。

<傍聴者4>

今朝の新聞に載っているんですけど、「36億3,300万円予算の削減」ということですかね、見直しというか、仕分けた30事業ということで、知事、どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。知事の意気込みでこれができたということですね。

<傍聴者2、傍聴者3、傍聴者4に対するの知事のコメント>

中部電力は安全第一にしていますから、安全でない限り原発を動かすことはあり得ませんから、これは明言しておきます。そしてこれは公開の場で安全であるかどうかということの研究会をしておりますので、県のホームページなり情報を御覧くだされば、いい加減

なことは決してありません。私はぶれることはありませんので御安心ください。

新茶の味が落ちているというのはびっくりしております。排ガスのことは、これは十分に検討に値することだと存じます。交差点の歩道については、やはり歩行者優先ですから、これ警察の方に聞いてみます。自転車の傘差しはちょっと難しい問題であるかもしれないですね。やっぱり安全ということがございますので、自転車で御老人が、高齢者が事故に遭うのが非常に増えているんですよ。ですから何とかそれを防ぎたいということもございまして、このあたりはちょっと微妙なところがあると思います。

それからウォーキングは、これはいい話ですね。伊能忠敬のところから歩いてもいいですよ、空港に。ともかく歩くということは、人間二足歩行して働くようになったとも言われておりますので、歩く思想、歩きながら考えれば私は健康になると、あなたのように、そういうふうに思っております。

それからまた予算を3年間で500億円強縮減しました。それで今度また事業仕分けで大きな予算にかかわるもので今まで3年間、バシバシ、バシバシ削ってやってきたんですけども、また今回は残されている事業で徹底的に詰めようということで、県民の方々の御参加を賜りながら、皆様方の税金ですから、それをどのようにして皆様方のために使うかということなので、ぜひ、いわゆる公のしもべであるのが我々ですから、それをよく使っていただくということで、皆様方こそ主人公なのです。そういう目を見ていただいて、むだを無くしていきたいというふうに思っておりますが、私のやっているのをおほめいただきまして元気が出ました。どうもありがとうございます。

今日は6人の地域の代表の方々からそれぞれの取り組みを御紹介賜ると同時に、建設的な御提言を賜りまして、大変勉強になりました。どうも今日は本当に長い時間ありがとうございました。